

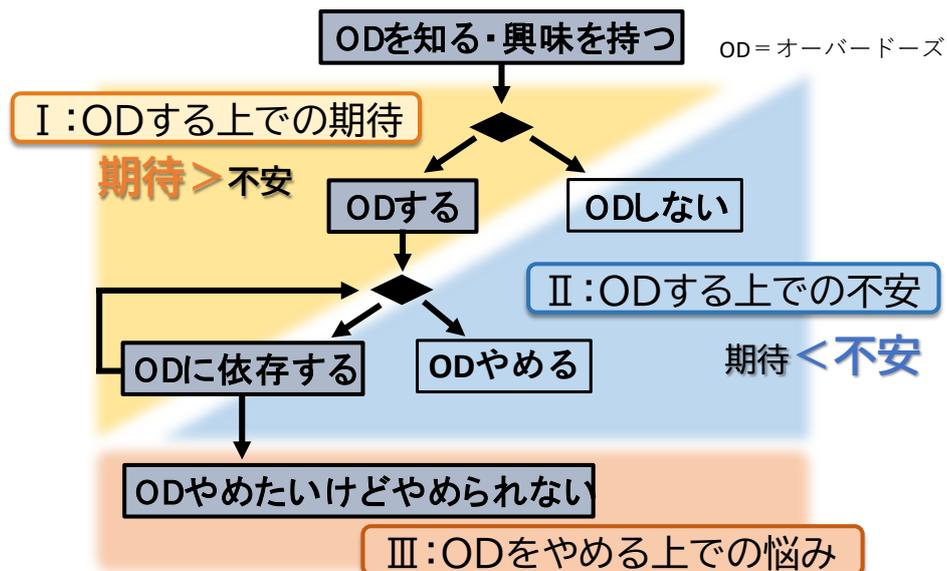
市販薬乱用に関して投稿された質問の分析 —Yahoo!知恵袋内テキストデータの定性分析—

概要

昨今、市販薬の過剰摂取に対する社会的関心が急速に高まっています。京都大学大学院医学研究科・中山健夫教授、同博士課程院生・刈谷梓らのグループは、医療機関や薬物依存回復支援施設を受診するほどの症状はみられないが、今後依存に陥る危険のある潜在している市販薬乱用者の存在に焦点を当て研究を実施しました。この研究の対象は、日本最大のQ&AサイトであるYahoo!知恵袋です。市販薬乱用に一般的に使用される医薬品名「ブロン®」とキーワード「オーバードーズ」「OD」を用いて検索を行い、テキストデータを抽出し、テーマ分析を行いました。Q&Aサイト内では、オーバードーズしている、またはオーバードーズしようとしている人々が、乱用に対する期待や不安に関する質問をしていました。また、依存症になった場合には、オーバードーズをやめるためのアドバイスを求めています。インターネットは市販薬乱用に関する情報交換に利用されています。この研究は、市販薬乱用に関する信頼できる情報を作成し、普及させることが必要であることを示唆しています。また、オーバードーズの機会を減らすためには、薬局やドラッグストアからのサポートも不可欠であるとしています。

本成果は、2023年11月22日に国際学術誌「JMIR Formative Research」にオンライン掲載されました。

結果の全体像



1. 背景

昨今、市販薬乱用に対する社会的関心が急速に高まっています。ドラッグストアで一般の人たちが手に取って買えるかぜ薬や咳止め薬などを多量に摂取すると、覚醒剤と同様の反応を得られます。その効果を知った若者たちが、抜けだすに抜け出せない沼にはまってしまっているという現状があります。厚生労働省の調査によると、10代の薬物関連障害患者において、市販薬によるものが5割以上を占めているという事実が明らかになっています。また、10代の市販薬による薬物関連障害患者が急増しているという事実も明らかになりました。市販薬は合法的に安価で誰でも簡単に入手可能という点で、覚醒剤などの違法薬物とは異なる対策上の困難さをはらんでいます。

いわば「手軽に乱用できてしまう」点が市販薬の潜在的な問題と言えますが、その乱用による中毒症状や依存症など心身への影響は深刻であり、専門的な治療が必要なケースも少なくありません。一方、精神科医療機関や薬物依存回復支援施設（drug addiction rehabilitation center: DARC）¹⁾を受診するほどの症状はみられないが、今後依存に陥る危険性の高い潜在的な市販薬乱用者も存在しています。

若者たちが市販薬乱用に関する情報を得ている媒体の一つに、インターネットが挙げられます。中でも、薬物乱用のような社会的な逸脱に関わる情報を得られるのは、利用者自身が情報を発信できるQ&Aサイトなどの知識共有コミュニティ（ナレッジコミュニティ）や、X（旧 Twitter）などの social networking services (SNS) です。これらは consumer-generated media (CGM) と呼ばれ、主としてインターネットを活用して一般の利用者がコンテンツを生成していく「消費者生成メディア」として、様々な分野で多く利用されています。ナレッジコミュニティの一つである、Q&A サイトは、登録した利用者が匿名（ユーザーID）で質問を投稿し、また、別の利用者が回答を投稿するといったシステムで知識が共有されます。Q&A サイトでは薬物に関する多様な情報の交換が行われており、Q&A サイトに投稿されている内容を分析することで、潜在する市販薬乱用者がどのような情報のやり取りをしているのかという実態を垣間見ることができます。

国内において、医療機関における市販薬乱用者に関する調査や、乱用のリスクがある市販薬の販売方法に関する調査の報告はありますが、専門機関を受診していない潜在する乱用者を対象とした研究は、これまで行われていません。現在専門機関でフォローされているのは一部分の集団であり、埋もれている市販薬乱用者の存在に目を向ける必要があります。

2. 研究手法・成果

国内最大のQ&Aサイトである「Yahoo!知恵袋」に投稿された質問データを使用しました。「Yahoo!知恵袋」は、利用登録をしたユーザーが質問・回答し合う、利用者参加型の知識共有コミュニティ（ナレッジコミュニティ）です。本研究では、「Yahoo!知恵袋」に投稿された質問内容のみを分析対象としました。市販薬や処方薬の乱用では、本来の薬効による症状の緩和を求めた結果として乱用に至る場合と、本来の薬効ではなく、自傷・自殺目的や「不安を紛らわすこと」、「意欲を高めること」を目的として、意図的に過量服薬をする場合があります。特に後者の急増が問題視されています。一般に、ネット上で使用される過量服薬を意味する言葉は「オーバードーズ」または「OD」（オーバードーズの略）です。本研究の予備調査でも、「過量服薬」や「乱用」よりも「オーバードーズ」「OD」を用いて市販薬乱用の内容について語られるケースが多いことを確認しました。以上より、本研究では「乱用」の内容を抽出する目的で「オーバードーズ」と「OD」の言葉を検索のキーワードとしました。

一般的に市販薬乱用に多く使用されている、鎮咳・去痰薬「ブロン®」のキーワードを用い、「Yahoo!知恵袋」のサイト内で、「ブロン オーバードーズ」または「ブロン OD」のキーワードで検索し、データ抽出を行います。

した。抽出された加工前の質問データから、分析に不要な部分を捨象し、本研究の対象となり得る内容の質問文に再構成を行いました。同時に、一件の質問に複数の質問内容が含まれる場合は、それぞれ別コードとして分析しました。

抽出された質問文の内容について、コード、カテゴリー、テーマを帰納的に抽出しました。そして、市販薬乱用の実態を当事者の立場から知ること、特に市販薬乱用についてどのような疑問が尋ねられているかを明らかにすることを目的として、質問内容のテーマ分析を行いました。

3. 波及効果、今後の予定

まず、OD の存在を知り、興味を持った人たちが、OD で得られる効果や方法など《OD する上での期待》や、OD が身体に及ぼす影響に対する懸念《OD する上での不安》を質問しています。そして、OD に対する不安より期待が上回った段階で OD していると推測されます。OD を経験した人たちが、より効果を得られる方法《OD する上での期待》や、OD したことで実際に自分の身に起きた苦痛《OD する上での不安》について質問しています。OD することへの期待が上回り、OD に依存した段階にある人たちは、さらに OD するうえでの期待や不安について質問しています。依存中、期待よりも不安が上回った段階で OD をやめるためにどうすれば良いのか《OD をやめる上での悩み》を質問するといった流れが見えてきました。

快楽を得ることや自分を傷つけることで、精神的苦痛から解放されたい気持ちがあるものの、身体に重篤な症状が現れることを望んでいるわけではない場合が多いとされています。期待と不安の間で葛藤しながら、質問を投稿しているのではないかと推察されます。そして、やめる上で抱える悩みについては、潜在する市販薬乱用者のみでなく、医療機関受診者も抱える悩みでもあると考えられます。

市販薬の乱用者が、Q&A サイト上にオーバードーズに関する質問を投稿しており、その投稿件数も増加している事実が、本研究から明らかになりました。本研究の対象である「Yahoo!知恵袋」を含め、多くの CGM では、匿名で情報を書き込むことができます CGM が素性を知られずに求める情報を迅速に得られる媒体として、市販薬を乱用している（しようとしている）一定の人たちに認知され、利用されていると考えられます。その前提には、オーバードーズが対面で他人に相談しづらいという認識があります。オーバードーズしている事実を周囲の人に知られることを不安に感じているといった質問からも、知人には気軽に聞けない内容であると認識していることがうかがえます。

このように、オーバードーズしている人たちは、孤独を感じながらも、CGM 上に市販薬乱用に関する情報を求めているのではないかと推察されます。さらに、オーバードーズしている人たちに向けた信頼できる情報提供が行き届いていない可能性もあります。オーバードーズしている人にとって、CGM が貴重な情報源であるとすれば、CGM から得られる情報が、ある程度の影響力を持つことが考えられます。潜在する市販薬乱用者が、深刻な依存状態に陥らないよう、また、依存状態から乱用をやめられるよう、オーバードーズに関する情報整備が必要と考えられます。

<用語解説>

1) 薬物依存回復支援施設 (drug addiction rehabilitation center: DARC) : ドラッグ(DRUG=薬物)の D、アディクション(ADDICTION=嗜癖、病的依存)の A、リハビリテーション(RIHABILITATION=回復)の R、センター(CENTER=施設、建物)の C を組み合わせた造語で、覚せい剤、危険ドラッグ、有機溶剤(シンナー等)、市販薬、その他の薬物から解放されるためのプログラム(ミーティングを中心に組まれたもの)を行っています。

<研究者のコメント>

国内において、医療機関における市販薬乱用者に関する調査などの報告はありますが、専門機関を受診していない潜在する乱用者を対象とした研究は、これまで行われていませんでした。現在、専門機関でフォローされているのは氷山の一角であり、埋もれている市販薬乱用者の存在に目を向ける必要があります。市販薬を乱用している人々が抱える不安を把握し、適切なサポートを提供することが必要と考えています。

<論文タイトルと著者>

タイトル：Internet-Based Inquiries From Users With the Intention to Overdose With Over-the-Counter Drugs: Qualitative Analysis of Yahoo! Chiebukuro（市販薬の過剰摂取を目的とするユーザーによるインターネット上に投稿される疑問：Yahoo!知恵袋の質的分析）

著者：刈谷梓、岡田浩、鈴木渉太、土手賢史、西川佳孝、荒木和夫、高橋由光、中山健夫

掲載誌：*JMIR Formative Research*. 2023;7:e45021. DOI：10.2196/45021